



夏季教職員研修

教職員研修は、この2年間、新型コロナウイルス感染症のため、中止やオンライン開催となっていました。今年度は感染対策を講じながらではありますが、3年ぶりに集合型で実施することができ、生徒指導や人権教育、支援教育など様々なテーマで20講座の研修を企画し、管理職や教員のニーズに応じて選択できるようにしました。

学識や専門家の講義を聴くだけでなく、参加者同士で討議を行うことで、研修内容を自分事としてとらえ、2学期からの実践に結びつけることができました。

参加者の感想には「ぜひ、取り組んでみたい。」や「自分の実践を振り返るきっかけとなりました。」など、肯定的な意見がたくさん聞かれ有意義な研修となりました。今回は、その中から2つを紹介したいと思います。

タイムリー研修

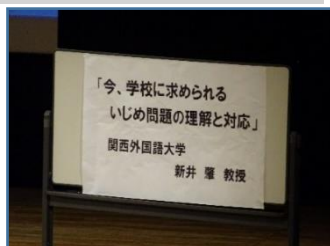
令和4年8月3日(水)

毎年、大阪狭山市の今日的な教育課題に合わせて研修テーマが設定される「タイムリー研修」、市立の各校園の教職員だけでなく、民間園の教職員も参加する市内最大の教職員研修です。

今年度は、関西外国語大学 新井 肇 教授をお迎えし、『今、学校に求められるいじめ問題の理解と対応』というテーマ

でご講演いただきました。新井教授は生徒指導の手引きといわれ、社会的にも注目されている

文部科学省作成「生徒指導提要」の12年ぶりの改訂に協力者会議の委員として参加され、生徒指導の方向性を示されています。



講演では、いじめ重大事態事案の事例検討をとおして、次の4つの課題が示されました。参加した先生方も、自校のいじめ防止基本方針を振り返りながら、ひとつずつ再確認していききました。

◎いじめの捉え方に関する課題

◎危機への気づきに関する課題

◎いじめ対応の原則の共通理解に関する課題

◎協働的指導・相談体制の構築と関係機関との連携に関する課題

「いじめは見つけようとしなければ見つからない」

という前提でいじめ問題に取り組む大切さを改めて確認しました。また、事例をとおして、新井教授から、「あなただったらどうする」という投げかけに先生方も真剣に考え、ペアワークで、学校現場を想定しながら考えていきました。「いじめに気づいた時、一人で抱え込むのではなく、周りの先生と共有し組織的に対応する」といういじめ対応の基本姿勢を改めて認識する機会となりました。

また、新井教授からは「チーム学校」の考え方を示していただきました。教職員の指導体制を充実させるのはもちろん、教職員以外の専門スタッフ(スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等)、そして関連機関との連携体制を構築していくことがいじめ対応に必要であることをお話していただきました。



先生方の感想

・いじめ発生件数を0にすることは、できないのかもしれない。でも、「いじめ見逃し0」なら実現可能だというお話が心に残りました。

・被害者を守るということを徹底しつつ、加害行為もしっかりと指導し、加害側も成長するように促す。ということを再認識することができました。

ふるさとさやま発見研修

令和4年8月9日(火)



初任者や10年経験者、他市から転任してこられた先生方を対象に、次の3点を目的として実施しました。

- 子どもたちのふるさとである大阪狭山市の歴史や文化に触れ、子どもたちへの指導に活かす。
- 研修を通して、市の職員としての意識を高める。
- 1人1台端末及びオクリンクを活用し、伝え合う力の向上を意識した授業づくりに取り組む。

取組みの様子を紹介します。

内容①さやま音頭を踊ろう

大阪狭山市文化協会舞踊部のみなさまから「さやま音頭」を教わりました。さすがは、さやまの先生方！3回ほどの練習で、振り付けをマスターし、楽しく踊れるようになりました。講師の方から「学校でも広めてくださいね。」とのエールを受け、先生方からは、「総合的な学習の



時間に取り入れることができるのではないか」や「運動会や体育大会でも活用できる」と前向きな意見がたくさん出ていました。

内容②大阪狭山市歌を歌おう

講師は狭山中学校の中本教頭先生。感染予防の為、声を出して歌うことはできませんでしたが、歌唱指導のポイントを、経験談を交えて分かりやすく教えていただきました。また、歌唱指導を通じて、

「安心して歌える集団」を作るという話がありました。集団作りが教育活動を効果的に進めるうえで重要であることに気づかされる内容でした。



内容③ 大阪狭山市の〇〇を紹介します

午後からは、大阪狭山市の魅力を紹介するプレゼンテーションの作成を通して、

- 大阪狭山市のことをもっと知る
- 地域の方々と交流する
- 1人1台端末をより効果的に活用する方法を考える

に取り組みました。

作成前に、どのようなことを調べるのかをグループで話し合い、取材先にアポイントの電話を入れ、また移動には公用車を使用することなど、学校生活の中ではあまり経験することがない活動で、参加者は緊張気味でした。

取材の後はプレゼンテーションの作成です。プレゼンは、普通の授業で子どもたちが使用しているオクリンクを使って



作成しました。教室で学習する子どもたちの立場に立ち、「わかりやすいプレゼン」を考えることで、趣向を凝らしたアイデアがたくさん出てきました。中には、クイズ番組風の動画を作成し、答えを考えることで大阪狭山市の魅力に気づくような内容を作成するグループもありました。

作成する中で、「1人1台端末のカメラ機能を使うとすぐに作成できますね」や「こっちのスラ



イドを送りますね」などの声も聞かれ、参加者が授業をイメージしていることが伝わってきました。



先生方の感想

- ・大阪狭山市の中の自分の知らない新たな場所や情報を知ることができた。
- ・自分たちで、外に出て、その場に行くことで授業のイメージを持つことができた。
- ・1日のふりかえりの際に、他校の先生方のオクリンクの活用の仕方が知れてよかった。

